

Daitron

第69期 定時株主総会 招集ご通知

株主総会にご出席の株主様へのお土産の配布並びに株主総会終了後の株主懇談会は取りやめとさせていただきます。

🕒 開催日時

2021年3月30日（火曜日）午前10時

📍 開催場所

大阪市淀川区宮原四丁目6番11号
当社 6階 大会議室
(末尾の株主総会会場ご案内図をご参照下さい。)

議 案

- 第1号議案 剰余金の処分の件
- 第2号議案 取締役6名選任の件
- 第3号議案 補欠監査役2名選任の件

目 次

第69期定時株主総会招集ご通知	1
事業報告	3
連結計算書類	24
計算書類	26
監査報告	28
株主総会参考書類	36

議決権は書面にて行使下さいますようお願い申し上げます。
議決権行使期限：2021年3月29日（月曜日）午後5時30分まで

招集ご通知がスマホでも！



パソコン・スマートフォン
からでも招集ご通知がご覧
いただけます。

<https://p.sokai.jp/7609/>



(証券コード 7609)

2021年3月8日

株 主 各 位

大阪市淀川区宮原四丁目6番11号

ダイトロン株式会社

代表取締役社長 前 績 行

第69期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第69期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本株主総会につきましては、極力書面による事前の議決権行使をいただき、株主様の健康状態にかかわらず、株主総会当日のご来場をお控えいただきますようお願い申し上げます。

事前の議決権行使につきましては、お手数ながら後記株主総会参考書類をご検討下さしまして、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2021年3月29日(月曜日)当社営業時間終了の時(午後5時30分)までに到着するようご送付下さいますようお願い申し上げます。

なお、当日のお土産の配布並びに株主懇談会は取りやめとさせていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

記

- | | | |
|------------|---------|--|
| 1. 日 | 時 | 2021年3月30日(火曜日)午前10時 |
| 2. 場 | 所 | 大阪市淀川区宮原四丁目6番11号
当社 6階 大会議室
(末尾の株主総会会場ご案内図をご参照下さい。) |
| 3. 目 的 事 項 | 報 告 事 項 | 1. 第69期(2020年1月1日から2020年12月31日まで)
事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第69期(2020年1月1日から2020年12月31日まで)
計算書類報告の件 |

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
第2号議案 取締役6名選任の件
第3号議案 補欠監査役2名選任の件

以上

-
1. 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出下さいますようお願い申し上げます。
 2. 法令及び定款第19条の規定に基づき、本招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、次に掲げる事項をインターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.daitron.co.jp/>) に掲載しておりますので、本招集ご通知提供書面には記載しておりません。なお、これらの事項は、監査報告を作成するに際し、監査役及び会計監査人が監査をした対象の一部であります。
 - ・事業報告の「株式会社の支配に関する基本方針」
 - ・連結計算書類の「連結株主資本等変動計算書」
 - ・連結計算書類の「連結注記表」
 - ・計算書類の「株主資本等変動計算書」
 - ・計算書類の「個別注記表」
 3. 株主総会参考書類、事業報告、連結計算書類並びに計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.daitron.co.jp/>) に掲載させていただきます。
 4. 新型コロナウイルス感染拡大防止への対応について
 - ① 株主様へのお願い
 - ・本株主総会会場へのご来場を極力お控えいただき、極力書面による事前の議決権行使をお願い申し上げます。
 - ・上記に伴い、ご来場の株主様へのお土産の配布並びに株主総会終了後の株主懇談会は取りやめとさせていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。
 - ② ご来場をご検討されている株主様へ
 - ・本株主総会会場へのご来場をご検討されている株主様は、株主総会当日の感染状況やご自身の体調をお確かめのうえ、マスク着用等の感染予防にご配慮いただき、ご来場賜りますようお願い申し上げます。
 - ・本株主総会会場において、受付前に感染予防のための措置としてご来場の株主様の検温、手指消毒、マスク着用の確認をさせていただきます。なお、37.5℃以上の発熱、咳などの症状がみられました株主様につきましては、本株主総会会場へのご入場をお断りさせていただく場合がございます。
 - ③ 当社の対応
 - ・当社役員、運営スタッフ等は、マスク着用で対応させていただきます。

(提供書面)

事業報告

(2020年1月1日から
2020年12月31日まで)

1. 企業集団の現況

(1) 当事業年度の事業の状況

① 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により経済活動が制限され、企業収益や雇用環境が悪化し、厳しい状況が続きました。その後新型コロナウイルス感染拡大が一時的に落ち着き、緩やかな回復の兆しが見え始めましたが、感染が再拡大したことにより、先行き不透明な状況が続きました。

世界経済につきましては、米中貿易摩擦の長期化に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、経済活動が大幅に制限される等、厳しい状況が続きました。

当社グループの属しておりますエレクトロニクス業界につきましては、5GやAI、IoTに関連する分野の進展により、半導体、電子部品関連の設備投資の需要が堅調に推移しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、生産活動は低調に推移しました。

このような状況下、当社グループは、「第9次中期経営計画（2017年～2020年）」の最終年度として、オリジナル製品の拡販や成長性を重視した新市場の開拓、海外事業の拡大に取り組みました。しかし、事業活動については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外への渡航制限等の制約を受けました。

この結果、当社グループの当連結会計年度の売上高は57,418百万円（前年同期比6.8%減）、営業利益は2,403百万円（前年同期比25.0%減）、経常利益は2,436百万円（前年同期比24.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,610百万円（前年同期比25.8%減）となりました。

セグメントごとの概況は以下のとおりであります。

<国内販売事業>

当セグメントにつきましては、製造装置は、前年に非常に好調であった「半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置」は増産投資が一段落したことから販売が減少しました。電子機器及び部品は、半導体生産設備向けに「電子部品&アセンブリ商品」のコネクタやハーネスの販売が、自動車関連市場に「画像関連機器・部品」のレンズ・照明の販売が、それぞれ増加しました。これらの要因により、売上、利益共に前年同期の実績を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は41,833百万円（前年同期比0.7%増）となり、セグメント利益（営業利益）は1,237百万円（前年同期比6.1%増）となりました。

<国内製造事業>

当セグメントにつきましては、製造装置を手掛ける装置事業部門は、ハードディスク市場への製造装置の販売が増加しましたが、車載市場向け電子部品生産用の装置の販売が減少しました。また、電子機器及び部品を手掛ける部品事業部門は、耐水圧コネクタ等の販売が増加しましたが、ハーネス及び電源機器の販売が減少しました。これらの要因により、外部顧客への売上高は前年同期の実績を上回りましたが、セグメント間の内部売上高を含めた総売上高、利益共に前年同期を下回りました。

この結果、セグメント間の内部売上高を含めた当セグメントの総売上高は9,012百万円（前年同期比9.5%減）となりました。外部顧客への売上高は3,844百万円（前年同期比9.8%増）となり、セグメント利益（営業利益）は870百万円（前年同期比22.4%減）となりました。

<海外事業>

当セグメントにつきましては、電子機器及び部品は、北米市場で「電子部品&アセンブリ商品」の販売が、韓国市場で「画像関連機器・部品」の販売が、それぞれ減少しました。また、製造装置は、北米市場及び東アジア市場で「半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置」の販売が減少しました。

この結果、当セグメントの売上高は11,739百万円（前年同期比29.2%減）となり、セグメント利益（営業利益）は358百万円（前年同期比63.3%減）となりました。

セグメント別売上高

セグメント	第68期		第69期（当期）	
	金額（千円）	構成比（％）	金額（千円）	構成比（％）
国内販売事業	41,544,544	67.4	41,833,347	72.9
国内製造事業	3,501,963	5.7	3,844,742	6.7
海外事業	16,574,847	26.9	11,739,965	20.4
合計	61,621,356	100.0	57,418,055	100.0

② 設備投資の状況

当連結会計年度中に実施した設備投資の総額は140百万円であります。

国内販売事業における主なものは、デモ用備品の取得14百万円であります。

国内製造事業における主なものは、測定機器の取得9百万円、デモ用備品の取得6百万円です。

海外事業における主なものは、デモ用備品の取得4百万円です。

全社（共通）における主なものは、生産管理システムの更新27百万円、情報通信機器の更新16百万円、在庫管理システムの更新12百万円です。

なお、当連結会計年度における重要な設備の除却、売却等はありません。

③ 資金調達の状況

当社は、効率的で安定した運転資金の調達を行うため、主要取引金融機関と総額2,000百万円のコミットメントライン契約を締結しております。

なお、当連結会計年度末における当該実行残高はございません。

④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

特に記載すべき重要な事項はありません。

⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

特に記載すべき重要な事項はありません。

⑥ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

特に記載すべき重要な事項はありません。

⑦ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

特に記載すべき重要な事項はありません。

(2) 財産及び損益の状況

区 分	第66期 (2017年12月期)	第67期 (2018年12月期)	第68期 (2019年12月期)	第69期(当期) (2020年12月期)
売上高 (千円)	51,684,327	59,662,791	61,621,356	57,418,055
経常利益 (千円)	2,583,096	3,592,757	3,220,105	2,436,667
親会社株主に帰属 する当期純利益 (千円)	1,867,947	2,274,892	2,171,825	1,610,839
1株当たり 当期純利益 (円)	169.15	205.25	195.86	145.24
総資産 (千円)	35,383,291	43,114,834	45,757,920	46,247,181
純資産 (千円)	15,492,950	16,977,348	18,765,912	19,798,696

(注) 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数により算出しております。

(3) 重要な親会社及び子会社の状況

① 親会社との関係

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

会 社 名	資 本 金	当 社 の 議 決 権 比 率	主 要 な 事 業 内 容
ダイトロン,INC.	4,000,000 米ドル	100%	北米市場における電子機器及び部品の製造、販売及び輸出入、製造装置の販売及び輸出入
ダイトロン(マレーシア)SDN.BHD.	2,500,000 マレーシアリングギット	100%	マレーシア、東南アジア市場における電子機器及び部品や製造装置の販売及び輸出入
大都電子(香港)有限公司	3,800,000 香港ドル	100%	香港、中国華南市場における電子機器及び部品等の販売、調達及び輸出入
大途電子(上海)有限公司	550,000 米ドル	100%	中国市場における電子機器及び部品や製造装置の販売及び輸出入
ダイトロン(韓国)CO.,LTD.	1,500,000千 韓国ウォン	100%	韓国、東アジア市場における電子機器及び部品の販売、調達及び輸出入
ダイトテック株式会社	10,000千円	100%	電子機器及び部品の製造及び販売

(注) 当社の完全子会社であるダイトテック株式会社及び鷹和産業株式会社は、2020年7月1日を効力発生日として、ダイトテック株式会社を存続会社、鷹和産業株式会社を消滅会社とする吸収合併を行いました。そのため、鷹和産業株式会社につきましては、記載を削除しております。

(4) 対処すべき課題

当社グループが属するエレクトロニクス業界は、国内外で技術の進歩や高度化・複雑化が加速する中で合従連衡が進むなど、変化の激しい事業環境が続いております。こうした環境下で生き残りを果たしていくためには、グローバルな視点で成長が期待される市場に注力し、付加価値の高い製品や商品の提供を行うことで安定的な成長と収益性を高めていくことが必要不可欠であると認識しております。

このような中、前中期経営計画「第9次中期経営計画（2017年～2020年）」については、オリジナル製品の拡販や成長性を重視した新市場の開拓、海外事業の拡大に取り組みました。その結果、新規市場の開拓による売上拡大や、海外での電子ビジネス拡充の取組みによる海外売上高の拡大という成果につながり、売上・利益共に過去最高実績を上回りました。

今後につきましては、当社グループの更なる成長に向けた課題として、「事業の安定と新たな挑戦の指標である事業別構成比の変革」、「高収益体質の指標であるオリジナル製品比率の向上」、「成長の指標である海外売上高比率の向上」、「製造・販売の融合を中心とした統合効果の最大化」を推進していくことが必要不可欠であると認識しております。

これらの課題に対処すべく、2021年を初年度とする三ヵ年の中期経営計画「第10次中期経営計画（2021年～2023年）」を策定いたしました。「第10次中期経営計画」では、引き続き事業構造の変革やグループ総合力の最大化を推進していくため、長期ビジョンとして「グループ・ステートメント」、「目指す企業イメージ」、「事業戦略」を規定いたしました。

[長期ビジョン]

○グループ・ステートメント

「Creator for the NEXT」

～グローバルな観点で市場を捉え、お客様のニーズの一步先の価値を創造し、提供する～

○目指す企業イメージ

- ・「グローバル視点で技術力と販売力を磨き、技術立社として社会に貢献する企業」
- ・「多様性でイノベーションを創出し、高い生産性を実現する企業」
- ・「社員にとって働き甲斐があり、誇りに思える企業」
- ・「一致団結の強さと同時に、自律能動的に動く組織文化を持つ企業」

○事業戦略

① 国内ビジネスの補強と安定成長

当社の強みである、地域に密着した営業を更に推し進めるべく、有望地域への拠点新設も検討しております。また、成長・拡大が見込める顧客に対して、より深く、より広く展開し、更に関係を強化してまいります。

② 海外事業の成長を推進

成長が著しい中国を始めとした東アジア、東南アジア市場における電子商材関連の拡充や、欧米における電子ビジネスの拡充など、重点的に深耕、開拓する市場を選定し、販売を強化してまいります。また、ヨーロッパ、米国、中国に新規出張所の開設検討や東南アジアの製造拠点新設も検討してまいります。

③ 生産体制の強化とオリジナル製品ビジネスの強化

第9次中期経営計画で中部工場を中核とした生産体制と技術開発体制を構築してきました。これらの体制を基礎に、第10次中期経営計画では生産体制の強化とオリジナル製品の強化を、更に進めてまいります。また、採算性の追求、標準品の開発、OEMビジネスの拡大など収益性にも注力して取り組んでまいります。

④ 新規ビジネスの推進

今後成長が見込まれる市場を明確にし、50～100億円規模の新規ビジネスの創出へ「新規事業推進体制」の構築を進めてまいります。

⑤ 事業サポート機能の改革推進

持続的な成長を支えていくための基盤づくりとして、IT戦略、財務戦略、広報戦略といったコーポレート部門の強化を行ってまいります。また、多様な人材が活躍できる企業へ人材の教育・育成にも注力してまいります。

現時点においては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響について不確定要素が多い状況ではありますが、当社グループが属するエレクトロニクス業界は、5G、AI、IoT等が関連するICT市場の拡大に加え、自動車やロボットの自動化に関連する機器や設備の需要拡大が見込まれる状況であります。引き続き、当社グループは前述の経営戦略に基づき、“エレクトロニクス業界の技術立社”として独自の進化を図り、グローバル市場で新たな価値を提供してまいります。

(5) 主要な事業内容 (2020年12月31日現在)

① 当社グループの主な取扱商品・製品

(電子機器及び部品)

- ・ 電子部品&アセンブリ商品
コネクタ、ハーネス、PCBアセンブリ、機器組立配線、その他
- ・ 半導体
アナログIC、高周波IC、映像用IC、その他
- ・ エンベデッド (組込み用ボード) システム
産業用カスタムPC、表示システム、組込み用シングルボードコンピュータ、その他
- ・ 電源機器
スイッチング電源、無停電電源装置、トランス、その他
- ・ 画像関連機器・部品
CMOSカメラ、レンズ・照明、画像処理装置、その他
- ・ 情報システム
ビデオ/音声会議システム、非接触ICカードシステム、その他
- ・ 電子機器及び部品のその他
エコ関連商品、その他

(製造装置)

- ・ 光デバイス製造装置
LD用製造装置、LED用製造装置、その他
- ・ LSI製造装置
通信用デバイス製造装置、パワーデバイス製造装置、その他
- ・ フラットパネルディスプレイ製造装置
液晶パネル製造装置、有機ELパネル製造装置、その他
- ・ 電子材料製造装置
シリコンウェーハ製造装置、化合物ウェーハ製造装置、その他
- ・ エネルギーデバイス製造装置
太陽電池製造装置、リチウムイオン電池製造装置、その他

② セグメント別事業内容

・国内販売事業

前記取扱商品全般につき、当社グループ内及び国内外の仕入先から仕入れ、主に国内の顧客及び当社グループ内向けに販売を行っております。

・国内製造事業

前記取扱商品の内、電子機器及び部品の電子部品&アセンブリ商品や電源機器、画像関連機器・部品、製造装置の光デバイス製造装置、フラットパネルディスプレイ製造装置、電子材料製造装置等の開発、製造及び販売を行っております。

・海外事業

前記取扱商品全般につき、海外各地域の市場を対象に販売及び輸出入、電子機器及び部品の電子部品&アセンブリ商品の製造、販売を行っております。

(6) 主要な営業所及び工場 (2020年12月31日現在)

① 当社

事業所	所在地
本社	大阪市淀川区宮原四丁目6番11号
東京本部	東京都千代田区麹町三丁目6番地
名古屋支店	名古屋市中区栄三丁目10番22号
営業拠点	東日本エリア営業部 宮城県・茨城県・栃木県・東京都・神奈川県・長野県 中部日本エリア営業部 石川県・静岡県・愛知県 西日本エリア営業部 京都府・大阪府・兵庫県・広島県・福岡県・熊本県 電子デバイス営業部 東京都・大阪府 情報システム営業部 東京都 機械営業部 宮城県・東京都・愛知県・大阪府・福岡県 海外営業部 東京都 グリーン・ファシリティ部 東京都・岐阜県・大阪府
物流拠点	商品仕入部 東京都・岐阜県・大阪府
製造拠点	装置事業部門 東京都・石川県・愛知県・京都府 部品事業部門 東京都・愛知県・滋賀県
海外拠点	台北支店 台湾(台北) マニラ駐在員事務所 フィリピン(マニラ) ハノイ駐在員事務所 ベトナム(ハノイ)

② 子会社

会 社 名	主 要 な 事 業 所
ダイトロン,INC.	本社 米国 (オレゴン州) 工場 米国 (ネブラスカ州)
ダイトロン(マレーシア)SDN.BHD.	本社 マレーシア (クアラルンプール)
大都電子(香港)有限公司	本社 中国 (香港)
大途電子(上海)有限公司	本社 中国 (上海)
ダイトロン(韓国)CO.,LTD.	本社 韓国 (ソウル)
ダイトテック株式会社	本社 大阪府 工場 広島県・福岡県

(7) 使用人の状況 (2020年12月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

セグメントの名称	使用人数	前連結会計年度末比増減
国内販売事業	371 (72) 名	17名増 (2名減)
国内製造事業	240 (170)	3名増 (4名減)
海外事業	170 (33)	5名増 (16名減)
全社 (共通)	74 (9)	7名増 (変動なし)
合計	855 (284)	32名増 (22名減)

- (注) 1. 使用人数は就業員数であり、パート及び嘱託社員等臨時使用人は () 内に年間の平均人員を外数で記載しております。なお、委任契約に基づく執行役員2名は、使用人数に含めておりません。
2. 全社 (共通) として記載されている使用人数は、特定の部門に区分できない管理部門に所属しているものであります。

② 当社の使用人の状況

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
724 (209) 名	30名増 (5名減)	41.1歳	15.2年

- (注) 使用人数は就業員数であり、パート及び嘱託社員等臨時使用人は () 内に年間の平均人員を外数で記載しております。なお、委任契約に基づく執行役員2名は、使用人数に含めておりません。

(8) 主要な借入先の状況 (2020年12月31日現在)

借入先	借入金残高
株式会社みずほ銀行	187,745 千円
株式会社三菱UFJ銀行	165,193 千円

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

特に記載すべき重要な事項はありません。

2. 会社の現況

(1) 株式の状況 (2020年12月31日現在)

- | | |
|---------------|---------------------------------|
| ① 発行可能株式総数 | 40,000,000株 |
| ② 発行済株式の総数 | 11,155,979株
(自己株式64,042株を含む) |
| ③ 株主数 | 3,896名 |
| ④ 大株主 (上位10名) | |

株主名	持株数	持株比率
公益財団法人ダイترون福祉財団	1,000千株	9.0%
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	973	8.8
大森有紀子	535	4.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	532	4.8
株式会社みずほ銀行	399	3.6
株式会社三菱UFJ銀行	363	3.3
ダイترون従業員持株会	361	3.3
ダイترون取引先持株会	198	1.8
日本生命保険相互会社	181	1.6
BBH LUX/DAIWA SBI LUX FUNDS SICAV-DSBI JAPAN EQUITY SMALL CAP ABSOLUTE VALUE	177	1.6

(注) 持株比率は自己株式 (64,042株) を控除して計算しております。

(2) 新株予約権等の状況

- ① 当事業年度末に当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況
該当事項はありません。
- ② 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況
該当事項はありません。
- ③ その他新株予約権等に関する重要事項
該当事項はありません。

(3) 会社役員 の 状況

① 取締役及び監査役の状況 (2020年12月31日現在)

地 位	氏 名	担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況
代 表 取 締 役 社 長	前 績 行	ダイトロン,INC. Director,Chairman
取 締 役	土 屋 伸 介	
取 締 役	毛 利 肇	
取 締 役	木 村 安 壽	木村公認会計士事務所 所長 株式会社シノプス 社外取締役 (監査等委員)
取 締 役	和 田 徹	フェニックス法律事務所 共同代表 OUGホールディングス株式会社 社外監査役
常 勤 監 査 役	氏 原 稔	
監 査 役	八 木 春 作	公認会計士・税理士八木春作事務所 所長
監 査 役	北 嶋 紀 子	フェニックス法律事務所 共同代表 三京化成株式会社 社外取締役 (監査等委員)

- (注) 1. 取締役木村安壽氏及び和田徹氏は、社外取締役であります。
 2. 監査役八木春作氏及び北嶋紀子氏は、社外監査役であります。
 3. 取締役木村安壽氏及び和田徹氏並びに監査役八木春作氏及び北嶋紀子氏については、当社が株式を上場している株式会社東京証券取引所に対し、同取引所の有価証券上場規程に定める独立役員としての届出をしております。
 4. 監査役八木春作氏は、公認会計士・税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、また、監査役北嶋紀子氏は、弁護士としての豊富な経験と高度な専門的見識を有しております。
 5. 当社は執行役員制度を導入しております。各執行役員の氏名及び担当は次のとおりであります。

地 位	氏 名	担 当
社 長 執 行 役 員	前 績 行	最高執行責任者
専 務 執 行 役 員	小 林 雅 則	D&Pカンパニー プレジデント
常 務 執 行 役 員	幾 谷 慎 司	M&Sカンパニー プレジデント
常 務 執 行 役 員	土 屋 伸 介	海外事業本部長
常 務 執 行 役 員	毛 利 肇	管理本部長
執 行 役 員	千 原 恒 人	M&Sカンパニー バイスプレジデント
執 行 役 員	代 田 安 俊	D&Pカンパニー 部品事業部門長
執 行 役 員	谷 森 和 彦	D&Pカンパニー 装置事業部門長

- ② 事業年度中に退任した取締役及び監査役
該当事項はありません。

③ 取締役及び監査役の報酬等の総額

区 分	支 給 人 員	支 給 額
取 締 役 (うち社外取締役分)	5名 (2名)	133,240千円 (20,800千円)
監 査 役 (うち社外監査役分)	3名 (2名)	24,840千円 (11,880千円)
合 計 (うち社外役員分)	8名 (4名)	158,080千円 (32,680千円)

- (注) 1. 取締役の報酬限度額は、1991年9月20日開催の臨時株主総会決議において年額500,000千円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）と決議いただいております。
2. 監査役の報酬限度額は、1999年3月30日開催の第47期定時株主総会決議において年額50,000千円以内と決議いただいております。
3. 当社は、2008年3月28日開催の第56期定時株主総会終結の時をもって取締役及び監査役の役員退職慰労金制度を廃止し、同株主総会終結後引続いて在任する取締役及び監査役に対しては、役員退職慰労金制度廃止までの在任期間に対応する役員退職慰労金を各氏の退任時に贈呈することを決議しております。

④ 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

取締役木村安壽氏は、木村公認会計士事務所所長、株式会社シノプス社外取締役（監査等委員）であります。なお、当社は、木村公認会計士事務所、株式会社シノプスとは特別の関係はありません。

取締役和田徹氏は、フェニックス法律事務所共同代表、OUGホールディングス株式会社社外監査役であります。なお、当社は、フェニックス法律事務所、OUGホールディングス株式会社とは特別の関係はありません。

監査役八木春作氏は、公認会計士・税理士八木春作事務所所長であります。なお、当社は、公認会計士・税理士八木春作事務所とは特別の関係はありません。

監査役北嶋紀子氏は、フェニックス法律事務所共同代表、三京化成株式会社社外取締役（監査等委員）であります。なお、当社は、フェニックス法律事務所、三京化成株式会社とは特別の関係はありません。

ロ. 当事業年度における主な活動状況

		活動状況
取締役	木村安壽	当事業年度に開催された取締役会17回の全てに出席いたしました。主に公認会計士としての専門的見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。
取締役	和田徹	当事業年度に開催された取締役会17回の全てに出席いたしました。主に弁護士としての専門的見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。
監査役	八木春作	当事業年度に開催された取締役会17回の全てに出席、監査役会14回の全てに出席いたしました。公認会計士・税理士としての専門的見地から取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。また、監査役会において、当社の内部監査について適宜、必要な発言を行っております。
監査役	北嶋紀子	当事業年度に開催された取締役会17回の全てに出席、監査役会14回の全てに出席いたしました。弁護士としての専門的見地から取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。また、監査役会において、当社の内部監査について適宜、必要な発言を行っております。

ハ. 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外取締役並びに各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める額としております。

(4) 会計監査人の状況

- ① 名称 有限責任監査法人トーマツ
 ② 報酬等の額

	支 払 額
I 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	37,500千円
II 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	40,500千円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の報酬等の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、上記 I の金額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算定根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。
- ③ 非監査業務の内容
 当社は、有限責任監査法人トーマツに対して、公認会計士法第 2 条第 1 項の業務以外の業務（非監査業務）である企業会計基準第 29 号「収益認識に関する会計基準」の適用による会計方針の検討に関する助言・指導についての対価を支払っております。
- ④ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針
 監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。
 また、会計監査人が会社法第 340 条第 1 項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

(5) 業務の適正を確保するための体制

I 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

① 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社グループの社会的信頼の維持、業務の公正性を確保することを目的としてコンプライアンス委員会を設置する。コンプライアンス委員会は役員及び従業員の行動規範として、コンプライアンス基本方針を定め、これを基にしたダイトロングループ行動憲章を制定し、これらの浸透を図ることとする。

取締役会は取締役会規程に基づき月1回これを開催することを原則とし、取締役間の意思疎通と相互の業務を監督することとする。また、社外取締役が取締役会に参加することにより、経営の透明性と健全性の維持に努めることとする。更に、各取締役の職務執行について社外監査役を含む監査役会がその定めによる監査方針に従い監督強化を図ることとする。

② 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の意思決定又は職務の執行に係る情報は文書管理規程に従い文書又は電磁的媒体（以下「文書等」という。）に記録し、保存することとする。また、取締役及び監査役は常時これらの文書等を閲覧できることとする。

③ 当社及び当社の子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社グループのリスク管理を体系的に行うことを目的としてリスク管理規程を制定し、「リスク管理責任者」及び各部署での「リスク管理担当者」を任命する。また、それらを統括する組織としてグループリスク管理委員会を設置して、未然防止対策の策定及び進捗管理を行うと共に、有事の際の迅速かつ適切な情報伝達と緊急体制を整備することとする。

なお、情報セキュリティに係るリスクに対しては、情報セキュリティ管理規程にて「情報セキュリティ最高責任者」及び「情報セキュリティ責任者」を任命し、グループリスク管理委員会と連携してリスク管理体制を整備することとする。

④ 当社及び当社の子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

経営環境変化に対応し現場における意思決定をより迅速にするため、執行役員制度を導入し、意思決定・監督機能と業務執行機能及び責任の分担を明確にすることとしている。その他、組織規程・業務分掌規程・職務権限規程・稟議規程を制定し、それぞれの業務の責任及び執行手続の詳細について定め、その適切な運営を図ることとする。

子会社については、当社の基準に準拠した職務権限等を規定し、その適切な運用を図ることとする。

- ⑤ 当社及び当社の子会社の使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

役員及び従業員の行動規範としてコンプライアンス基本方針を定め、これを基にしたダイトロングループ行動憲章を制定し、これらの浸透を図ることとする。

企業内不祥事の未然・拡大防止を目的として、第三者機関を情報提供先とする内部者通報・相談窓口「ダイトロングループ・コンプライアンスホットライン」を設置する等、法令違反又はそのおそれのある事実の早期発見に努めている。なお、違反の疑義があるような行為が発生したときには、リスク管理規程に基づき迅速な情報収集・対処と情報開示を適時適切に行うこととする。

法令に則した諸規程を制定しており、監査室はその遵守状況について監査を行い、取締役及び監査役会に報告することとする。

- ⑥ 当社の子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

当社のグループ各社の取締役等は、グループ経営管理規程に基づき、法定事項に加え当社及び当社グループ各社に重大な影響を及ぼす事項について当社に報告することとする。

- ⑦ 当社及び当社の子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社の取締役会は常にグループレベルでの経営状況を把握し、グループ企業価値の最大化に向けた中長期の経営課題や重要案件について迅速な意思決定を行い、グループ全体の企業統治の一層の強化を推進することとする。

当社グループの多様性を活かし、より強力にグループ経営を推進するため、グループ経営戦略室を設置して戦略立案を行うこととする。

当社と一体となったグループ経営管理体制を構築するため、グループ経営管理規程を制定し、これに基づいた運営を子会社に求めることとする。

グループ全社でダイトロングループ行動憲章に基づいた業務活動を行うことにより、コンプライアンスの維持向上を目指すこととする。

当社並びに当社の子会社の監査役（社外監査役含む）は、グループ監査役連絡会を定期的に開催し、グループ各社の監査に関する情報及び意見を交換し、グループ全体の企業統治を担える体制をとることとする。

- ⑧ 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及びその独立性に関する事項並びに当社の監査役の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査役会が職務を補助すべき使用人を求めた場合、監査室がその職務を行うこととする。

監査役の職務を補助する使用人への監査業務に関する指揮命令権は監査役に属するものとする。

監査室長の人事異動に関しては、監査役会の承認を得た上で取締役会にて決定することとする。

- ⑨ 当社並びに当社の子会社の取締役等及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社の監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制、及び当社の監査役に報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

取締役会は監査役及び監査役会に対して、当社及び当社の子会社における次の事項を報告することとする。

- a) 会社に著しい損害を及ぼす事項
- b) 毎月の経営状況として重要な事項
- c) 監査室の監査状況及びリスク管理に関する重要な事項
- d) 重大な法令・定款違反
- e) その他内部通報制度により通報されたコンプライアンス上重要な事項

前記に関わらず、監査役は必要に応じて、役員及び従業員に対して報告を求めることができることとする。

監査役に対して報告を行った者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、コンプライアンスマニュアルにおいて通報者が不利益を被ることはないことと定めることとする。

- ⑩ 当該監査役設置会社の監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役の監査業務に係る費用は会社が負担し、その必要額は年間予算を設定して確保することとする。

監査役より監査費用の前払請求や立替金の精算請求があった場合、会社は直ちにこれを支払うこととする。

⑪ その他当社の監査役が実効的に行われることを確保するための体制

監査役監査規程の定めに基づき、監査役は重要な会議に出席して意見を述べると共に、代表取締役と定期的に会合を持ち、代表取締役の経営方針を確かめると共に会社が対処すべき課題、会社を取巻くリスクの他、監査役監査の環境整備状況、監査上の重要課題等について意見を交換することとする。

Ⅱ 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社グループにおける業務の適正を確保するために必要な体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

① 取締役の職務執行

当社は監査役会設置会社の体制を採用しており、取締役5名（うち社外取締役2名）、監査役3名（うち社外監査役2名）を選任し、社外取締役が取締役会に参加することにより、経営の透明性と健全性の維持に努めております。取締役会は、原則として月1度の定時開催とし、更に重要案件が発生した時は、適時臨時取締役会を開催することとしております。取締役会の参加者は十分に情報を与えられた上で、誠実に相当なる注意を払って、会社及び株主の最善の利益のために行動しております。また、当社の取締役会は常にグループでの経営状態を把握し、グループ企業価値の最大化に向けて、「グループ総合力の強化」を図るための中長期の経営課題や重要案件について迅速な意思決定を行い、グループ全体の企業統治の一層の強化を推進しております。

当事業年度においては、取締役会は17回開催されております。

② コンプライアンスの状況

当社グループでは、当社代表取締役社長を委員長とするコンプライアンス委員会を設置し、社内外の関連法規の遵守を柱とする高い倫理観に根ざしたコンプライアンス体制を構築して、グループの健全で円滑な企業運営へ向けた内部統制の強化及び統制活動の整備推進に取り組んでおります。また、企業内不祥事の未然・拡大防止を目的として、第三者機関を情報提供先とする内部者通報・相談窓口「ダイトロングループ・コンプライアンスホットライン」を設置し、法令違反又はそのおそれのある事実の早期発見に努めております。

当事業年度においては、コンプライアンス委員会は2回開催しており、委員は情報開示委員会及びグループリスク管理委員会と連携を取り、常に情報の収集に努めております。

また、取締役会及び執行役員会等の審議を通じ、コンプライアンスに関する該当事項を把握しております。

③ リスク管理体制の状況

当社グループでは、当社管理本部長を委員長とするグループリスク管理委員会を設置し、リスク管理を経営上の極めて重要な活動と認識し、企業価値及び信頼性の向上に取り組んでおります。また、経営に重大な影響を及ぼすと懸念されるさまざまなリスクを未然に防止し、ステークホルダーの利益を損なわないよう迅速かつ的確に対処し、経営資源の保全に努めており、各事業部門に管理責任者を指名し、リスク管理活動を行うと共に、リスク管理に関する重要事項を速やかに報告する体制をとっております。

当事業年度においては、グループリスク管理委員会は4回開催されております。

④ グループ会社管理体制

当社グループでは、ダイトロングループ間の意思の疎通を図り、円滑なグループ活動と、技術、生産、営業の諸問題につきグループとしての統一性をもった体制整備を行い、協調を促進するため、原則として年1回以上のグループ合同役員会を開催しております。

当事業年度においては、グループ合同役員会は1回開催されております。

⑤ 監査役と内部監査の状況

当社は監査役会設置会社の体制を採用しており、監査役3名（うち社外監査役2名）は、取締役の職務執行の適法性を監査すると共に、取締役会に常時出席し客観的な立場から意見を述べるほか、重要な会議に出席し、当社及びグループ会社の業務全般にわたり適法、適正に業務執行がなされているかを監査し、不正行為の防止に努めております。なお、社外監査役2名はそれぞれ弁護士、公認会計士・税理士であり、その専門的な見地から提言、助言を行っております。

また、内部監査については、社内の各部門から独立した監査室を設置し、内部監査担当3名により関係会社を含めた監査を実施し、内部統制の維持向上に努めております。

監査役会、監査室及び会計監査人は、実効性のある監査の実施に向けて、必要に応じて情報交換や意見交換を行い、相互連携の強化に努めております。

連結貸借対照表

(2020年12月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	39,569,528	流動負債	23,221,185
現金及び預金	12,280,615	支払手形及び買掛金	6,694,914
受取手形及び売掛金	11,247,755	電子記録債権	8,058,085
電子記録債権	5,668,444	短期借入金	336,253
商品及び製品	3,460,365	1年内返済予定の長期借入金	31,686
仕掛品	2,921,476	リース債務	4,137
原材料	275,968	未払法人税等	429,318
前渡金	3,596,272	賞与引当金	88,773
その他	129,152	製品保証引当金	30,658
貸倒引当金	△10,523	前受金	6,563,375
固定資産	6,677,653	その他	983,982
有形固定資産	4,273,912	固定負債	3,227,299
建物及び構築物	1,950,096	リース債務	2,288
機械装置及び運搬具	87,088	退職給付に係る負債	3,165,068
土地	2,102,118	資産除去債務	49,242
その他	134,608	その他	10,700
無形固定資産	139,965	負債合計	26,448,485
その他	139,965	純資産の部	
投資その他の資産	2,263,775	株主資本	19,490,471
投資有価証券	1,688,378	資本金	2,200,708
従業員に対する長期貸付金	480	資本剰余金	2,559,286
繰延税金資産	179,993	利益剰余金	14,779,043
その他	402,510	自己株式	△48,566
貸倒引当金	△7,586	その他の包括利益累計額	304,859
資産合計	46,247,181	その他有価証券評価差額金	733,002
		繰延ヘッジ損益	△990
		為替換算調整勘定	△157,026
		退職給付に係る調整累計額	△270,125
		非支配株主持分	3,366
		純資産合計	19,798,696
		負債・純資産合計	46,247,181

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(2020年1月1日から
2020年12月31日まで)

(単位：千円)

科目	金額	
売上高		57,418,055
売上原価		45,941,848
売上総利益		11,476,207
販売費及び一般管理費		9,072,384
営業利益		2,403,822
営業外収益		
受取利息	3,320	
受取配当金	24,661	
保険配当金	10,706	
仕入割引	8,343	
補助金収入	45,826	
雑収入	28,838	121,697
営業外費用		
支払利息	8,186	
手形売却損	1,011	
売上割引	14,311	
為替差損	58,924	
雑損失	6,417	88,852
経常利益		2,436,667
特別利益		
固定資産売却益	13,034	13,034
特別損失		
固定資産除売却損	8	8
税金等調整前当期純利益		2,449,693
法人税、住民税及び事業税	875,592	
法人税等調整額	△36,737	838,854
当期純利益		1,610,839
親会社株主に帰属する当期純利益		1,610,839

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(2020年12月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	36,849,712	流動負債	22,318,989
現金及び預金	10,835,743	支払手形	939,156
受取手形	602,606	電子記録債務	8,058,085
電子記録債権	5,632,405	買掛金	5,522,005
売掛金	10,126,421	1年内返済予定の長期借入金	31,686
商品及び製品	2,781,260	リース債務	3,789
仕掛品	2,913,498	未払金	406,520
原材料	241,467	未払費用	145,666
前渡金	3,536,690	未払法人税等	391,675
前払費用	3,522	前受金	6,399,770
短期貸付金	93,363	預り金	231,370
未収入金	61,535	賞与引当金	42,007
その他	22,280	製品保証引当金	30,658
貸倒引当金	△1,082	その他	116,596
固定資産	7,174,918	固定負債	2,846,709
有形固定資産	4,228,556	リース債務	1,974
建物	1,909,438	退職給付引当金	2,784,791
構築物	36,501	資産除去債務	49,242
機械及び装置	66,275	その他	10,700
車両運搬具	5,410	負債合計	25,165,698
工具、器具及び備品	103,853	純資産の部	
土地	2,102,118	株主資本	18,126,920
その他	4,957	資本金	2,200,708
無形固定資産	129,414	資本剰余金	2,559,286
ソフトウェア	71,650	資本準備金	2,482,896
リース資産	814	その他資本剰余金	76,389
電話加入権	17,239	利益剰余金	13,415,492
その他	39,710	利益準備金	163,559
投資その他の資産	2,816,948	その他利益剰余金	13,251,933
投資有価証券	1,688,378	別途積立金	5,170,000
関係会社株式	522,752	繰越利益剰余金	8,081,933
長期貸付金	100,480	自己株式	△48,566
差入保証金	320,917	評価・換算差額等	732,012
繰延税金資産	152,998	その他有価証券評価差額金	733,002
その他	51,677	繰延ヘッジ損益	△990
貸倒引当金	△20,257	純資産合計	18,858,933
資産合計	44,024,631	負債・純資産合計	44,024,631

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(2020年1月1日から
2020年12月31日まで)

(単位：千円)

科目	金額	金額
売上高		53,642,753
売上原価		43,377,431
売上総利益		10,265,322
販売費及び一般管理費		8,106,921
営業利益		2,158,401
営業外収益		
受取利息	2,663	
受取配当金	117,683	
経営指導料	5,586	
貸倒引当金戻入額	35,447	
補助金収入	42,189	
雑収入	51,034	254,604
営業外費用		
支払利息	2,131	
手形売却損	1,011	
売上割引	14,311	
貸倒引当金繰入額	2,327	
為替差損	45,290	
雑損失	5,484	70,557
経常利益		2,342,448
特別利益		
固定資産売却益	9,284	9,284
特別損失		
固定資産除売却損	7	7
税引前当期純利益		2,351,725
法人税、住民税及び事業税	811,145	
法人税等調整額	△42,670	768,475
当期純利益		1,583,250

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結計算書類に係る会計監査人の会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2021年2月8日

ダイトロン株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
大阪事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩淵	貴史	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	福岡	宏之	Ⓔ

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、ダイトロン株式会社の2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイトロン株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

計算書類に係る会計監査人の会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2021年2月8日

ダイترون株式会社

取締役会 御 中

有限責任監査法人トーマツ
大阪事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩 淵	貴 史	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	福 岡	宏 之	Ⓔ

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、ダイترون株式会社の2020年1月1日から2020年12月31日までの第69期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書(以下「計算書類等」という。)について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、2020年1月1日から2020年12月31日までの第69期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施いたしました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制(内部統制システム)について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③ 事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針については、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。
 - ④ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」(会社計算規則第131条各号に掲げる事項)を「監査に関する品質管理基準」(平成17年10月28日企業会計審議会)等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項はありません。
- ④ 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、指摘すべき事項はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2021年2月10日

ダイترون株式会社 監査役会

常 勤 監 査 役 氏 原 稔 ㊟
監査役(社外監査役) 八 木 春 作 ㊟
監査役(社外監査役) 北 嶋 紀 子 ㊟
以 上

以 上

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

第69期の剰余金の処分につきましては、当期の業績並びに今後の事業展開等を勘案いたしまして、以下のとおりといたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

- ① 配当財産の種類
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき金30円 総額は332,758,110円
なお、中間配当金として1株につき金20円をお支払いしておりますので、当期の年間配当金は1株につき金50円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日
2021年3月31日

招集通知

事業報告

連結計算書類

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社 株式の数
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 再任 社外 独立 </div> <p style="text-align: center;"> <small>きむらやすとし</small> 木村安壽 <small>(1949年4月3日生)</small> 【社外取締役候補者】 </p>	1973年11月 等松・青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ) 入所 1977年9月 公認会計士登録(現) 1991年7月 トーマツコンサルティング株式会社(現アビームコンサルティング株式会社) 代表取締役社長 1995年7月 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ) 代表社員 1999年9月 木村公認会計士事務所開設 所長(現) 2000年3月 当社社外監査役 2007年3月 当社社外取締役(現任) (重要な兼職の状況) 木村公認会計士事務所 所長 株式会社シノプス 社外取締役(監査等委員)	株 5,900
	【社外取締役候補者とした理由】 公認会計士としての豊富な経験と高度な専門的見識を有しておられることから、引き続き当社グループの経営に対して有益なご意見やご指摘をいただけると判断し、社外取締役候補者といたしました。		
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 再任 社外 独立 </div> <p style="text-align: center;"> <small>わだとおる</small> 和田徹 <small>(1955年3月23日生)</small> 【社外取締役候補者】 </p>	1985年4月 弁護士登録(現) 1989年3月 和田徹法律事務所開設 所長 2003年2月 フェニックス法律事務所開設 共同代表(現) 2003年3月 当社社外監査役 2017年3月 当社社外取締役(現任) (重要な兼職の状況) フェニックス法律事務所 共同代表 OUGホールディングス株式会社 社外監査役	1,000
	【社外取締役候補者とした理由】 弁護士としての豊富な経験と高度な専門的見識を有しておられることから、引き続き当社グループの経営に対して有益なご意見やご指摘をいただけると判断し、社外取締役候補者といたしました。なお、同氏は過去に社外役員となること以外の方法で会社の経営に関与された経験はありませんが、上記の理由により、社外取締役としての職務を適切に遂行することができるものと判断しております。		

第3号議案 補欠監査役2名選任の件

法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役2名の選任をお願いするものであります。

補欠監査役の候補者は次のとおりであり、兼田稔氏は現監査役氏原稔氏の補欠としての監査役候補者、中山聡氏は現社外監査役八木春作氏及び北嶋紀子氏の補欠としての社外監査役候補者であります。

なお、補欠監査役の選任が効力を有する期間は、次期定時株主総会の開始の時までであります。監査役就任前に限り、監査役会の同意を得て、取締役会の決議によりその選任を取り消すことができるものとさせていただきます。

また、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)	所有する当社株式の数
1	<div style="text-align: center;"> <small>かおだ</small> 兼田 稔 <small>みのる</small> (1962年5月1日生) </div>	1987年4月 当社入社 2016年4月 当社監査室長(現)	1,100株
	【補欠の監査役候補者とした理由】 長年にわたり内部監査に従事し、豊富な業務経験・実績・見識を有していることから、適切な監査の実施に適任であると判断し、補欠の監査役候補者といたしました。		
2	<div style="text-align: center;"> 社外 <small>なかやま</small> 中山 聡 <small>さとし</small> (1962年9月2日生) 【補欠の社外監査役候補者】 </div>	1987年10月 サンワ・等松青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)入所 1991年8月 公認会計士登録(現) 2007年6月 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)パートナー 2020年7月 中山聡公認会計士事務所開設 所長(現) 〃 監査法人京立志設立 代表社員(現) (重要な兼職の状況) 中山聡公認会計士事務所 所長 監査法人京立志 代表社員	—
	【補欠の社外監査役候補者とした理由】 公認会計士としての豊富な経験と高度な専門的見識を有しておられることから、当社グループの監査において有益なご意見やご指摘をいただけると判断し、補欠の社外監査役候補者といたしました。なお、同氏は過去に社外役員となること以外の方法で会社の経営に関与された経験はありませんが、上記の理由により、社外監査役としての職務を適切に遂行することができるものと判断しております。		

- (注) 1. 各補欠監査役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 中山聡氏は、補欠の社外監査役候補者であります。
3. 中山聡氏が監査役に就任することとなった場合は、当社と同氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める額といたします。
4. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる会社役員としての職務の執行に関して責任を負うこと、又は、当該責任の追及に係る損害賠償請求がなされたことによって被る法律上の損害を当該保険契約により填補することとしております。兼田稔氏及び中山聡氏が就任した場合、両氏は当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、次回更新時には同内容での更新を予定しております。

以 上

株主総会会場ご案内図

会場 大阪市淀川区宮原四丁目6番11号
当社 6階 大会議室



- 交通機関
1. J R 新大阪駅西口より徒歩10分
 2. 地下鉄 (御堂筋線) 新大阪駅4番出口より徒歩7分

なお、会場には駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

*当日のお土産の配布並びに株主懇談会は取りやめとさせていただきます。